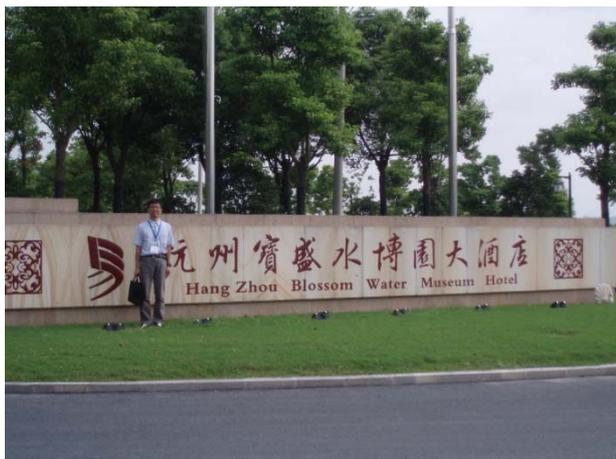


第2回世界海洋大会に参加して

水野 伸也

世界海洋大会は、中国の水産業に関わる公的機関（行政、大学など）が主催者となり開催される学会です。第1回大会は2012年大連で、今大会は第2回目となり、2013年9月23日から25日まで杭州(Hangzhou:中国語読みでハンジョウと発音)の Hangzhou Blossom Water Museum Hotel で開催されました。本大会は、増養殖、海洋藻類、



会場となったホテル前にて記念撮影

海洋バイオテクノロジー、水産工学の4つの分科会から成り、世界各国から集まった研究者が各分科会で発表します。道総研からは、私一人が出席し、増養殖分科会に参加しました。プログラムを見ると、日本からは東京大学、京都大学、広島大学、水産総合研究センターから各1名ずつの先生が出席されていました。

9月22日、新千歳空港から関西空港を經由して杭州国際空港へ15時25分の定刻に到着しました。フライト時間はトータルで4時間50分、時差も1時間だったため、通常勤務しているのと特に変わりません。しかし、現地の気温は33℃、出発時北海道の気温は18℃だったため、空港で早速着衣を長袖から半袖1枚に代えました。空港からはシャトルバスに乗りホテルへ直行、このホテルは中国水利博物館公園の中にあり、周囲は川に囲まれています。夕食まで時間があつたので、ホテルの周囲を散策すると、小舟に乗った漁師さんが、ホテルの裏の川でチュウゴクモクズガニ（上海ガニ）を獲っていました。また、川のあちこちに、ふくべ網が仕掛けられており、中国では内水面漁業が盛んであることが窺えました。当日ホテルの夕食は、中国での第1食目になります。バイキング形式で、以後朝昼晩約50皿ずつ出され、毎食半分程度出される皿が変わります。その中で、毎食出されてい



外装のみが完成していた中国水利博物館



ホテル裏の川で漁獲されていた上海ガニ

た皿が北京ダックです。日本では、かなり高価な中華料理ですので3食続けて食べましたが、さすがに脂肪の多さに敗北、4食目以降は食べませんでした。中華料理では、その調理法から野菜でも油通しされるものが多く、私にとっては全体的に油多め、胃もたれするような食事ばかりでした。

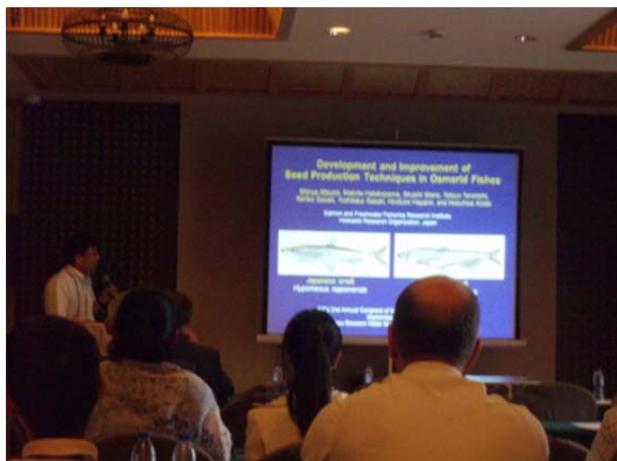
翌日23日、開会式の前に約300名規模の集合写真の撮影があり、引き続き開会式とプレナリーレクチャーが午前中行われました。開会式には、関係者が加わり約700名規模となり、とても大きな学会という印象を受けました。23日午後から25日午前中までは増養殖分科会のプ



4食目で断念した北京ダック

プログラムが設定されており、各研究者の発表を聴講していました。中でも興味を持ったのは、ブラジルから出席していた Becker 博士の発表です。彼は、ブラジル国内に繁茂している雑草から抽出した成分を餌に添加して、アマゾン川産ピラニアやナマズなどの飼育魚に与え、雑草成分が魚の健康に与えるプラスの効果を報告していました。この成分は、酸素消費量の急激な増加、アンモニアの排出、体内のイオンロスを抑え、魚をリラックスさせる効果を示します。私も、ちょうど今、サケ稚魚の健康に与えるハーブの効果について研究しており、今後の研究を進める上でとても参考になる発表でした。

24日は私の発表日です。Development and Improvement of Seed Production Techniques in Osmerid Fishes (キュウリウオ科魚類の種苗生産技術の発展と改善について)という題目で14時50分から15時15分までの25分間、口頭発表を行いました。レーザーポインターを使っ



質問タイムを失った私の発表

て順調に発表を進めていましたが、5分を過ぎたころから、みるみるポインターの示すスポットが弱々しくなり、10分後には終りにポインターの光が消えました。ポインターの予備、交換用の電池は言うまでもなく準備されておらず、座長のイタリア人が発表を中断するよう指示したため、電池が届くまでの約3分間は雑談タイムとなりました。発表を再開し、最後まで終えた時には既に25分を越えており、座長は1つぐらい質問を受け付けてくれるだろうと期待していましたが、「時間が押していますので、次のコーヒブレイクの間に質疑回答して下さい。」と、バッサリ切られました。約3分間の質問タイムを残すよう入念に発表練習を続けてきましたが、水の泡となりました。

25日は午後から分科会がなく、杭州中心街へ出かけることにしました。杭州は、旧南宋時代の首都であり、中国の八大古都の一つとして国家文化歴史名城に指定されています。町の中心には世界遺産に指定されている西湖があり、先ずここへ赴くことにしました。西湖の湖岸に



世界遺産西湖と六和塔(右後方)

は遊歩道が設けられており、その道を散策することになりましたが、さすが世界遺産というだけはあって、観光客で溢れかえっていました。また、観光客を乗せたカートがしばしば、狭い遊歩道でクラクションを鳴らしながら走っていたため、ゆっくり風景を楽しむ余裕はありませんでした。次に街中へ移動し散策していると魚屋さんを見つけました。店頭には、さばかれたレンギョのアラ、奥の水槽には上海ガニ、カムルチー、スッポン、スズキ、ワタリガニが活魚で売られていました。値札を見て、最も高かったのは上海ガニのkg当たり4,000円、日本の内水面漁業では考えられないような値段に驚きました。

26日は移動日で9時に杭州国際空港を発ち、韓国の仁川国際空港、関西空港を経由して、新千歳空港には22時に到着、無事帰国することができました。私にとって、今回の第2回世界海洋大会参加は、新たな学術的知見を吸収できただけでなく、中国の文化・慣習に触れる貴重な機会となり、大変意義深いものとなりました。

(内水面資源部 みずのしんや)



第2回世界海洋大会の集合写真